【2】年【数学】科　　年間指導・評価計画

教科担当【林】　　総授業時数【105】時間

月	単元名・題材名 学習内容	時数	評価規準＜おおむね満足できる：観点B＞（評価資料） 知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
4 5	第1章 式の計算 1. 式の計算 [A(1)ア(ア)イ(ア)] 2. 式の活用 [A(1)ア(イ)(ウ)(エ)イ(イ)]	16	多項式の加法、減法，乗法，除法の計算ができるとともに、目的に応じて式を活用したり、等式を変形したりして式の意味を読み取ることができる。 単項式や多項式などの意味を理解し文字を使った式を用いて、数量および数量の関係を一般的に説明することの必要性と意味を理解している。 （定期考査・小テスト・課題等）	1年での学習内容から発展的に式の計算を考えたり、文字を使った式で数量や数量の関係を説明することができる。 文字を使った式を具体的な場面に用いることができる。 （定期考査・小テスト・課題・レポート等）	文字を使った式の計算や、それらを活用して問題を解決することに関心をもち式の見方を深めようとしている。 （授業・ノート・ワーク・課題・レポート等）
6	第2章 連立方程式 1. 連立方程式とその解き方 [A(2)ア] 2. 連立方程式の活用 [A(2)イ]	15	加減法や代入法を用いて連立2元1次方程式を解いたり、連立2元1次方程式を活用して、問題を解決したりすることができる。 2元1次方程式と連立2元1次方程式の意味、およびその解の意味や、連立2元1次方程式を活用した問題の解き方を理解することができる。 （定期考査・小テスト・課題等）	2つの文字の一方を消去すると、既知の1元1次方程式に帰着できることに気付き、式の形に応じた解き方を考えることができる。 連立2元1次方程式を具体的な場面で使うことができる。 （定期考査・小テスト・課題・レポート等）	2元1次方程式や連立2元1次方程式とその解について関心をもち、その解き方や活用の仕方を考えようとしている。 （授業・ノート・ワーク・課題・レポート等）
7 8 9	第3章 1次関数 1. 1次関数 [C(1)ア(ア)] 2. 1次関数と方程式 [C(1)ア(ウ)] 3. 1次関数の活用 [C(1)ア(イ)イ]	19	y軸上の切片や傾きをもとに1次関数のグラフをかいたり、グラフから1次方程式の解を求めたり、2元1次方程式の問題に関するグラフをかいたりすることができる。 関数や1次関数の意味、1次関数の変化の特徴やグラフの特徴を理解している。（定期考査・小テスト・課題等）	1次関数の特徴を比例と関連づけて考察したり、2元1次方程式の問題を1次関数のグラフを利用して解くことができる。 2元1次方程式を、関数関係を表す式とみることで、2元1次方程式の解と1次関数のグラフの関係を考察し、表現することができる。 （定期考査・小テスト・課題・レポート等）	一次関数に関心をもち、その特徴を表、式、グラフなどを使って調べようとしている。 （授業・ノート・ワーク・課題・レポート等）
10 11	第4章 平行と合同 1. 平行線と角 [B(1)ア，イ] 2. 合同と証明 [B(2)ア]	19	平行線の性質などを数学の用語や記号を使って表したり、図形の性質の証明を説明することができる。 平行線の性質などの基本的な図形の性質を理解するとともに、証明することの意義やしくみを理解することができる。 （定期考査・小テスト・課題等）	演繹的な方法の必要性に気づき、仮定から結論までの仮定を確かな根拠を用いて筋道をたてて考えることができる。 （定期考査・小テスト・課題・レポート等）	平行線の性質や三角形の合同条件を使って図形の性質を考えることに関心をもち、証明のしかたを身に付けようとしている。 （授業・ノート・ワーク・課題・レポート等）
12	第5章 三角形と四角形 1. 三角形 2. 四角形 3. 三角形と四角形の応用 [B(2)イ]	20	図形の性質や、その図形になるための条件などを、記号を使って表したり、その意味を読み取ったりすることができる。 定義や定理の意味、および基本的な図形の定義や定理を理解することができる。（定期考査・小テスト・課題等）	二等辺三角形や平行四辺形の性質、および条件を証明することができる。 （定期考査・小テスト・課題・レポート等）	二等辺三角形や平行四辺形の性質などに関心をもち、それらが成り立つことを証明しようとしている。 （授業・ノート・ワーク・課題・レポート等）
1	第6章 確率 1. 確率 [D(2)ア，イ]	8	表や樹形図を活用して場合の数を求め、それをもとにして確率を求めることができる。 確率の意味や、同様に確からしいことの意味を理解し、問題を解決するための手段を身に付けている。 （定期考査・小テスト・課題等）	統計的な確率や数学的な確率の考えにもとづいて、確率の求め方を考えることができる。 （定期考査・小テスト・課題・レポート等）	あることがらの起こりやすさを数で表すことに関心をもち、不確定な事象を調べようとしている。 （授業・ノート・ワーク・課題・レポート等）
2 3	第7章 データの分析 1. データの散らばり [D(1)ア] 2. データの活用 [D(1)イ]	8	四分位数、四分位範囲、箱ひげ図の必要性と意味を理解している。 データを整理し箱ひげ図を使って表すことができる。 （定期考査・小テスト・課題等）	四分位数、四分位範囲、箱ひげ図を使って複数のデータを比較し、分布の傾向を読み取り、見出した結論や課程を考察し判断することができる。 （定期考査・課題・レポート等）	四分位範囲や箱ひげ図の必要性と意味を考えようとしている。 （授業・ノート・ワーク・課題・レポート等）